

国際協力

2020.7.1

夏号

No.64

JICA 駒ヶ根

コロナ禍でのJICA海外協力隊員

新型コロナウイルス感染症の世界的拡大のため、JICA 海外協力隊の隊員たちは、3 月後半から4 月にかけて、全員が日本へ帰国しました。

3 月に訓練を修了したばかりの隊員も合わせて約 2000 人の隊員たちが、現在日本で待機しています。

任期途中での突然の帰国に戸惑い、複雑な想いを抱

きながらも、多くの隊員が、コロナ禍の中で自分にできることは何かを考え、それぞれの立場で社会貢献に取り組んでいます。

今回の広報紙では、待機中の隊員たちの取り組みについてご紹介します。

隊員と中学生をつなぐオンライン交流が本格始動!



駒ヶ根訓練所から約 70km 離れた阿南第二中学校の 1、2 年生と、待機隊員とのオンラインを活用した交流プログラムが始まりました。

阿南第二中学校で当初 6 月に予定していた訓練所施設見学が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で10 月に延期となりました。そこで、施設見学での理解をより深いものにするために、国際協力やJICA の取り組みについて継続的に学ぶ機会を作りたいという中学校の思



いと、待機隊員が任国での活動や経験を子どもたちに伝える機会を作りたいという訓練所の思いが重なり、このプログラムが実現しました。

6 月 8 日のオリエンテーションでは、JICA スタッフと隊員が中学校を訪問し、JICA が取り組む国際協力や JICA 海外協力隊について、クイズを交えながら説明しました。生徒たちは初めて知る開発途上国の実情や世界中で活動する JICA 海外協力隊に興味をもって話を聞いていました。

オンライン交流初日は 6 月 23 日。生徒 12 名とオンラインで繋がり、隊員はそれぞれ任地で撮影した写真を見せながら派遣国や活動について紹介しました。初めてのオンラインでの会話に生徒たちは緊張した様子でしたが、「何を食べていたの?」「どんな授業をしたの?」など積極的に質問をしてくれました。

今後は、生徒が派遣国の様々なことについて自分自身で調べ、分からなかったことや、もっと詳しく知りたいことは、月 1 回の交流を通して、隊員が自身の経験をもとに子供たちに説明します。最終的には、10 月の施設見学の際に、生徒一人ひとりが学んだことを発表します。

オンラインという新しいツールを使うことで、子供たちは直接現地に行かなくても、世界中とつながり、世界の問題に目を向けることができます。阿南第二中学校の子供たちも、隊員との交流を通じて、世界に目を向け、国際協力に興味を持ってくれることを期待しています。



派遣の日を待ちながら、人手不足のキャベツ農家で働いています！

私たち2019年度3次隊の派遣前訓練の期間中に、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが発生しました。6回の挑戦を経てようやく合格し、念願の協力隊員として4月に派遣が予定されていましたが、派遣延期となり、非常にショックを受けました。ようやくここまでたどり着いたのに、何というタイミングの悪さ。正直なところ派遣は絶望的であると思い、語学自習にもなかなか手が付けられない有様でした。とは言え落ち込んでばかりもいません。

この5月より、群馬県嬬恋村のキャベツ農家で住み込みのアルバイトをすることにしました。新型コロナの影響で技能実習生



が入国できず、農業人材が不足しているということをニュースで見、関心を持ちました。農業は過去に半年弱行っただけで、なかなか肉體労働に



見渡す限りのキャベツ畑

は慣れませんが、山々に囲まれた環境で新鮮な気持ちで働いています。食事と睡眠を十分にとり、身体(特に腰)を傷めないようにケアをしながら10月までの仕事を乗り切りたいです。

派遣がいつになるのかまだ先は見えませんが、こんな時代だからこそ国際協力が必要とされているのだと信じます。可能な限り派遣される日を待ち、任国と日本との橋渡しとなることを目指します。

2019年度3次隊

かがせ ゆう

加賀瀬 悠さん(上田市)

●派遣国：ケニア

●職種：環境教育

日本に居ても、ネパール語をブラッシュアップ

ネパールから一時帰国中の待機隊員たちが、再派遣に備えて、毎週2回、120分間のビデオ会議アプリ「Zoom」を使ってのネパール語のオンラインレッスンを始めました。

教材は、ネパールの新聞。参加者には事前に記事が配布されます。レッスンでは、講師のサヤミ先生に、新聞記事の中の難しい単語を、簡単なネパール語を使って解説してもらった後で、その記事に関して皆でディスカッションします。

駒ヶ根訓練所で訓練を受けた時期は違いますが、同じネパールで活動していた仲間同士。日本の各地から、こうしてオンラインを通して繋がり、切磋琢磨してネパール語を勉強しています。

サヤミ先生も、ネパールですっかりたくましく成長した隊員たちの様子を嬉しそうに見守りつつ、アドバイスをしています。

任国から離れていても、待機隊員たちは、ネパールを思いながら、来るべき再赴任に備えています。



オンラインレッスン

オンライン授業でブラジルの 子供たちを教えています

私の任地第一アリアンサ村は、ブラジルのサンパウロ州の北西部にあり、長野県茅野市出身の永田稔氏が発起人となり、長野県が融資を行い、土地を購入し、移住を進めた村で、別名「長野村」と呼ばれています。現在の人口は約1000人で、そのうち日系家族が約70世帯、およそ250人います。この村で、私は日本語教師として活動をしていました。学習者は日系4世の子どもたちと、非日系(ブラジル人)の子どもたち、合わせて20人です。

日本へ一時帰国後の現在は、オンライン会議システムを使い、高校生と中学生はブラジル時間の7

時半と19時半から、小学生は9時から授業をしています。期間限定で無料公開されている日本語教材やNHKのやさしい日本語ニュース、パワーポイントなどを使っています。子どもたちは、将来日本に行きたいという思いをもって、意欲的に取り組んでいます。

この他に、日本の中学生と俳句の交流を考慮しており、日本の文化やブラジルの生活の情報交換などができないかと話を進めています。こんな時だからこそできる、アリアンサ村と長野県の交流を進めていきたいと思います。

2019年度1次隊

こ さ か ゆ う き

小坂 佑騎 さん(佐久市)

●派遣国：ブラジル

●職 種：日本語教育



アリアンサでの日本語学校



～派遣前訓練の活動先とつながる待機隊員たち～

派遣前訓練の協力活動(地域実践)の受け入れ先の一つである「つなぐ♡HUB」は、地域の子供たちへの学習支援を行う「アルパカフェ」を駒ヶ根駅前で開催しています。新型コロナウイルスの影響でしばらく活動を休止していましたが、この度一時帰国中の待機隊員たちと子供たちが、「Zoom」を使ってオンラインで再びつながる交流が始まりました。

初回のオンライン講座は株式会社ミライロのシャルマさんが、多様性について語り、隊員たちは補助に入る形でワークショップに取り組みました。

参加者は35人。ある子供は、「人前で話すことは苦手だったが、皆で意見を出し合うことを経験できた。これからは積極的に話さないともったいないと感じた」と振り返っていました。

「つなぐ♡HUB」の宮澤代表は、「普段は2行ほどしか日記を書かないような子が、今日は考えたこと

をノートが一杯になるまで書き込んでいたり、このイベントに恐る恐る参加した子が、皆の前で積極的に発言していて嬉しい」と笑顔で話していました。

次回、6月27日(土)以降は、2018年度1次隊としてキルギスに青少年活動の職種で派遣されていた本田隆介さんの講座をはじめとして、待機中の隊員たちがオンラインで子供たちとつながります。

「つなぐ♡HUB」のフェイスブックページに予告や報告が掲載されますので、ぜひご覧ください。



つなぐ♡HUB アルパカフェ



ベナン共和国からの便り

～新型コロナウイルス禍の様子～



平成4年度3次隊
いけうち おさむ
池内 修さん

在ベナン共和国日本国大使館
技術派遣員

- 派遣国：チュニジア
- 職種：電子機器

ベナン国の政治・商業都市コトヌに来て6ヶ月が過ぎました。

国際空港、省庁、大使館などがある町コトヌはバイクが多く、通勤時間帯は混み合いますが、それ以外はなんとなく長閑で平穏です。

そんなベナンにもコロナウイルスの波が押し寄せ、空港閉鎖にはなっていないものの、フライトの激減や入国時のコロナ検査、2週間の自己隔離もあり、出入国は大変になっています。多くのコロナウイルスは外国から持ち込まれるため、フライトが減ったのが幸いしてか、コロナ患者数は隣国に比べて少ないです(7月1日現在感染者数1,199人、死者21人)。

コロナが始まった頃は中国発祥ということで、アジア系住民に罵声を浴びせる外国人(ベナン人ではありません)がいたりしましたが、ベナン政府はコロナ感染者の特定や隔離方法など公にしており、また患者数や治癒数を毎日発表していることもあって、また時間の経



お店の前で入店前の手洗い
(体温検査を行なっている商店もある)

過でみんな慣れたようで、みんな落ち着いています。結局買い溜めによる品切れなどは起きていません。

使い捨てマスクは薬局で1枚200CFA(日本円で約40円)、布マスクはブティックで500CFA(約100円)前後で売られ、商店、レストラン、銀行、薬局など至るところに手洗いのバケツが置いてあります。店舗の前では警備員がマスクと手を洗うように促すため、みんな手を洗っています。最近では気が緩んでマスクをしていない人が増えてきたようにも見えますが、感染症に対する予防意識を高めつつ、このまま手洗いが定着して欲しいです。



協力隊員が良く来ていたよ、と語り、戻って来るのを待ち望む屋台の男性



コロナでマスクをする人が増えた(バイク)



色々な言葉で ワンフレーズレッスン

ネパール語で



1. こんにちは → नमस्ते (ナマステ)
2. 手を洗いましょう → हात धोऔं। (ハト ドオウン)
3. うがいをしましょう → कुल्ला गरौं। (クラ ガラウン)

シンハラ語で



1. こんにちは → ආයුබෝවන්! (アーユボーワン!)
2. 手を洗いましょう → අත් හෝදමු. (アタ ホーダム)
3. うがいをしましょう → උගුර කට හෝදමු. (ウグラ カタ ホーダム)



マダガスカルの 手洗いソング



平成20年度1次隊
いちのさとみ

市野紗登美さん(長野市)

●派遣国：マダガスカル
●職種：村落開発普及員
(現：コミュニティ開発)

私が協力隊員として赴任したマダガスカルは、美しい自然や珍しい動植物で知られる一方、貧困や栄養不良、マラリア、肺炎、下痢といった病気に苦しむ人たちが多く存在する国でもあります。首都からバスで3時間ほどの村落部にある保健センターに配属され、住民の保健衛生状況を改善することになった私がまず注目したのが、「手洗い」でした。



マダガスカルの小学校で手洗いの指導

「石鹸を使った正しい手洗い」は病気の予防にとって最も大切かつ簡単な方法の一つです。当時、先輩隊員が作成した啓発用の紙芝居やカードなどがあり、それらを使って活動をしていたのですが、子どもたちがもっと楽しんで手洗いに取り組めないか…と考えた先に思いついたのが、手洗いソング&ダンス“Sasao ny tananao(マダガスカル語で

「手を洗おう!」の作成でした。

作成からちょうど10年となる今年、世界中で、石鹸を使った正しい手洗いの大切さが確認されることになりました。この記事を読んでくださっている皆様もぜひ、石鹸を使った正しい手洗いを続けていただけたらと思います。併せて、作成当時のストーリーと今もマダガスカルで引き継がれている手洗いの活動の様子も、JICAのHPからご覧いただけたら嬉しいです。

https://www.jica.go.jp/topics/2020/20200508_01.html



手洗いソング完成時任地の子どもたちとの「お披露目会」で

スペイン語で



- 1. こんにちは → ¡Hola!
(オラ)
- 2.手を洗いましょう → ¡Vamos a lavarnos las manos!
(バモス ア ラバルノス ラス マノス)
- 3.うがいをしましょう → ¡Vamos a hacer gárgaras!
(バモス ア アセール ガルガラス)

フランス語で



- 1. こんにちは → Bonjour!
(ボンジュール)
- 2.手を洗いましょう → Lavez-vous les mains.
(ラベ・ブ レ・マン)
- 3.うがいをしましょう → Gargarisez-vous.
(ガルガリゼ・ブ)

英語で



- 1. こんにちは → Hello
(ハロー)
- 2.手を洗いましょう → Wash your hands!
(ウォッシュ ユア ハンズ)
- 3.うがいをしましょう → Gargle!
(ガーグル)

新シリーズ

訓練所の語学講師に聞きました!

駒ヶ根訓練所の派遣前訓練では、全体の約65%を語学の勉強に費やします。訓練生が一番多くの時間を一緒に過ごす、語学講師に聞きました!

第2回目は、駒ヶ根訓練所で一番長い間教えているネパール語講師サヤミ先生にお聞きしました。



サヤミ先生は、いつから訓練所で教えていらっしゃいますか?

S:1984年4月からで今年で36年になります。その間の2年間は、二本松訓練所でも教えていました。

サヤミ先生と駒ヶ根訓練所は色々なご縁で結ばれているそうですね。

S:僕はカトマンズ出身なのですが、小学校5、6年生の頃、初めてJOCV(青年海外協力隊)を知りました。その当時、学校でアメリカの平和部隊の先生が教えていて、その平和部隊のオフィスの隣が、JOCVのオフィスだったんです。

さらに、僕が東京で学んでいた日本語学校の今井先生が、協力隊になるために駒ヶ根で訓練を受けました。今井先生と訓練所で同期だった石橋さんは、ネパールで僕が会ったことがある人でした。

人生の半分以上を過ごした駒ヶ根市のことをどう思いますか?

S:僕は自然が大好きだから、駒ヶ根が大好きです。時間

があれば生徒たちと山や川に行きます。訓練所を、もっと市民の皆さんに開放的にしたいですね。市民の皆さんの中には、訓練所はエリートが集まる所で、自分とは縁のない場所と考えている人が多いと思います。全国に2ヶ所しかない訓練所を自慢とってくれる市民の人が増えるといいですね。

訓練所でネパール語を教えるやりがいって何ですか?

S:ネパール語のことを何も知らない生徒たちが、2ヶ月以内で、ネパール語のみを使って教えられるようになるのを見て、自分だって、こうやって語学を学びたかったと思います。ネパールを出ている自分が、ネパールへ派遣されてネパールのために活動する隊員達に、ネパール語を教えることにやりがいを感じます。

訓練所で一番印象に残っていることは何ですか?

S:一つには絞れないなあ...

訓練所の授業では毎日ネパール語で日記を書くようになっていますが、授業では嫌々書いていた隊員が、現地で会った時に、日記を何冊も見せて、コメントが欲しいと言われた時にはびっくりしましたよ。

最後に、これから協力隊を目指す人へのメッセージをお願いします。

S:インターネットで世界のことを何でも知ることができる時代ですが、体で体験しないと知識としては残らないと思います。

勉強するのもよいですが、色々な物を体験して知るところを是非やって欲しいと思います。

サヤミ先生ありがとうございました!

JICA国際協力中学生・高校生 エッセイコンテスト2020を開催します!

今年のテーマは「世界とつながる自分—私たちが考えること、できること—」
新型コロナウイルスの世界的な感染拡大によって、どこにいても世界と自分がつながっていることを実感する今日この頃です。

身近にある自分と世界との接点から、感じたこと、行動したこと、自分の思いを「言葉」にしてエッセイを書いてみませんか?

海外経験がなくても、皆さんの身近にいる海外から日本にきた人(例えば、地域に住む外国人、留学生等)を通じて感じたこと、日本国内にいて感じた世界・地球の課題(地球温暖化、気象災害、TV番組で観た紛争等)なども対象になります。

■募集期間:2020年6月7日(日)~2020年9月11日(金)

応募作品は自分の考えや体験等をエッセイとして書いたもので、他のコンクール事業等で発表していないものとします。上位受賞者は、海外研修に参加できます。

長野県からは、一昨年、昨年と2年続いて、上位受賞者が出ています。

中学生・高校生の皆さんからの多数のご応募、心からお待ちしています!

応募の詳細情報は



JICA国際協力中学生・高校生
エッセイ
コンテスト
2020
募集期間
6月7日 ~ 9月11日
世界とつながる自分
—私たちが考えること、できること—

主催: 独立行政法人国際協力機構 (JICA) 後援: (株)国際協力国際教育センター 協賛: 国際協力機構
協力: 長野県国際協力推進協議会 協賛: 国際協力機構

JICA 国際協力機構 (JICA) 後援: (株)国際協力国際教育センター 協賛: 国際協力機構
協力: 長野県国際協力推進協議会 協賛: 国際協力機構

JICA ANA 高校生新聞

発行 独立行政法人 国際協力機構
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336
E-mail jicakjv@jica.go.jp
https://www.jica.go.jp/komagane/index.html

JICA駒ヶ根 facebook ページを開設!

<https://www.facebook.com/jicakomagane>

JICA駒ヶ根 メールマガジン

配信希望の方は jicakjv@jica.go.jp

までメールでご連絡ください!

JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、耳よりな情報をリアルタイムでお届けします。